

# 一橋植樹会の歩み



# 一橋植樹会史刊行によせて

昭和48年に一橋植樹会が発足してから37年が経ちました。また、活動の中心をボランティア作業によるキャンパスの緑の保全管理に変えてからも、はやくも7年が経過しました。大学の策定した「国立キャンパス緑地基本計画」に基づき、東京農工大学の福嶋先生のご指導のもとに行われたボランティア作業は累計で81回に達し、大学の行う整備と相まってキャンパスの緑は良好な状態に保たれており、初期の狙いはかなりの程度達成されたのではないかと思います。

その間に、一橋植樹会の会員も増加し平成21年度末には1153名になり、オールー橋の活動として定着しました。ただ、OB会員の若返りや、学生、教職員への更なる浸透などといった課題も残されています。

このような時期に当たり、一橋植樹会の歴史を振り返りその足跡をたどることにより今後の展開を考える上での参考にすべく「一橋植樹会史」を刊行することになりました。

先輩方の母校やキャンパスに対する熱き想いを汲み取り、流された汗に感謝しつつ、この小冊子が一橋植樹会の更なる発展と充実に資することが出来れば幸いです。

平成22年8月 一橋植樹会会長 籏野 友夫(昭 38 経)



つつじと図書館

西曆	<b>F</b>	植樹会関連トピックス	学内トピックス	学外トピックス
1967	7 昭 42	増田学長の植樹運動提唱		ASEAN 結成
		「昭和 40 年代初め、国立キャンパスにある松が異常に多く枯れてゆくのに気止めたいと、如水会報に拙文を載せたところ、花いっぱい運動にご熱心であるくの会員から関心を寄せられ、母校への植樹運動が盛り上がってきた。」(	った加藤彌兵衛さんなど	EC 発足
		「増田先生は、毎日学内を散策、国立の一木一草を思いを込めてご覧になっ時、先生は一木一草に深い何かがあることに思いをいたし母校の環境を憂えおられたのであろう。」(後年の阿部学長の植樹会総会時挨拶に)		
1968	1月 昭 43	加藤彌兵衛氏(明 39 本)ら「母校へ植樹を」 運動スタート、有志が『募金』を募り、以降毎 年大学に寄付	学生自治確認書取り交わし	伊藤整氏(昭6学)芸術院 会員となる
1969	昭 44		大学紛争	文化庁設置 大学紛争 アポロ宇宙船月面着陸
1970	昭 45			大阪万博、三島由紀夫自殺
1971	昭 46	WASH WE THE ZHOUR DISTANCE	千代田区に「一ツ橋」の 町名維持の努力が結実	沖縄返還協定締結
		総会で挨拶をされる増田四郎副会長		ドルショック

西暦		植樹会関連トピックス	学内トピックス	学外トピックス
1972	昭 47		一橋寮竣工	札幌冬季五輪
1072	8月	世話人会が開催された。主だった世話人の方々は増田四郎、加藤彌兵衛、		日中国交回復
		横田毅一郎各氏		
1973	昭 48		学部入学生数 722 名	
	10 月	26 日創立総会開催 初代会長に本田弘敏氏(大10本)就任		金大中事件
		植樹会の目的と事業		
		「一橋植樹会は一橋大学のキャンパスの緑化推進、環境整備に必要な援助をす	することを目的とする。	
		「必要な援助」は財政的援助、樹木や草花などを寄付する物的援助ないし労		
			(定款から)	
		同時に、創立総会以降に繰り返し説明されてきた「理念」がこのとき表明され	ている。	
		1、学園キャンパスの荒廃に立ち向かうの精神		
		2、環境整備の一助となる 3、「母校に緑と花」運動に力をいれ会員を増やす		円相場変動制へ
		5、中央に際に119年初に分という公共と名(7)		
		本田弘敏初代会長の挨拶から		
		「美しい自然の赤松に囲まれた国立の緑深い環境は教育の場として本当に		
		ころがその後、樹齢のためか、大気汚染のためか松の立ち枯れが目立つに の対策に腐心、大学の環境保持に努められたのに呼応して、先年来加藤彌		
		の対策に関心、人学の環境保持に劣められたのに呼応して、元年米加藤藤 樹」運動を起こされてきたのであります。今回この運動を組織化することにな		
		発足することになり・・・・。」「・・・・大学百年の大計のため極めて有意義な事		戦後初マイナス成長
1974	昭 49		E CONTRACTOR	
13/4	4 月	観桜会開催	1	
	10月	植樹会;初年度1年で寄付・会費184万円に上った	(1) 新用的	
			Non-Maria	
			A STATE OF THE PARTY OF THE PAR	
			n n	
			- A	
				THE RESERVE
		ヒマラヤ杉の植樹(1975 年)		
1975	昭 50			
1070	4月	第2回総会での報告から、「NY 支部寄付により金木犀を植樹」	一橋大学 100 周年記念式典	ベトナム戦争終結
1976	昭 51		同 100 周年記念事業スタート	ロッキード事件、毛沢東死去
10==	4月	第3回総会時に観桜会実施		- 61 IW
1977	昭 52	第4回総会開催時に一橋百年記念・渋沢栄一翁生家訪問・植樹祭・端艇	授業料 96 千円/年となる	日航機ハイジャック事件
	4 H	部激励会・寮歌祭合同の懇親会開催	12木付 30 Tロ/ 午とはる	
		B8 ⇒ ≡	加高小。	
		「海外支部の寄付によりカイツ゛カイブ・キ、ツケ゛を植樹」	藤橋。記	
		橋章植紫	· 你明 个 人	
		植門母的	衛郎明	
1070	D77 C0	1±141=7 A 76	樹	묘ᄑᇷᆂᆉᄼᄼ
1978	昭 53	植樹記念碑 第5回総会開催、本田会長の挨拶から		│ 日中平和友好条約調印 │ 大平首相就任
		「会員の皆様の熱心な後援により、母校一橋大学キャンパスの植樹および	環境整備のために客せら	
		れた会費および寄付金は、累計600万円余になります。 一方、これによる		植村直巳犬ぞりで 北極点到達
		まして、・・・・学園紛争のころの荒廃したキャンパスの状況と比べれば、全く	今昔の感があるといってよ	ᆌᇰᇭᆈᄹ
		い位、美しく整備されてまいりました。		
		古来、『明媚なる山水は偉人を生む』と申しますが、私は、このような環境整理のあればにあるから、		1ドル 200 円を切る
		邦家のために有為なる人材を生むであろうことを、大いに期待する次第です 創期を経て、今や成長期に入ったと考えております。」	。私は、本会の事業が草	
		Annyi とれてく、 / いか、以内川〜ハンルとでん くのりみり。」		
1979	昭 54	ᅉᇬᄝᄵᄉᄜᅝ	共通一次試験スタート	ソ連アフガン侵攻
	4月	第6回総会開催		サッチャー政権誕生

西暦		植 樹 会 関 連 ト ピ ッ ク ス	学内トピックス	学外トピックス
1980	昭 55		図書館新館竣工	海外旅行本格化
	4月	第7回総会記録に「『大学キャンパス総合環境整備計画』後援の件を満場 一致で可決」		イラン・イラク戦争
		同報告事項中から		
		「思索の森」の造園(太田可夫教授ゆかり)、「アメリカハナミズキ」植樹(水上達三氏寄贈)、百周年記念碑の設置」		
1981	昭 56		授業料 18 万円/年となる	
	4 月	第8回総会開催		中国残留孤児初来日
				田中康夫氏「なんとなく かんなり がんがって「文芸賞」受賞
				中教審「生涯教育に ついて」答申
				気象衛星「ひまわり2号」 打ち上げ成功
		総会後の記念撮影		
1982	昭 57 2 月	増田元学長の言葉から(如水会々報寄稿「初代会長本田氏を偲んで」	国立天下市、一橋祭共催スタート	フォークランド紛争
	-7.	「本田さんは、この運動の純粋さに賛同され、いつも「こんな気持ちのよい名の運動の推進に尽瘁されたのである。そして毎年春4月に、花見をかねてお会には、どんなに忙しくとも必ず出席され、樹木の整ってきた小平と国立り・・・・。」	らこなう国立での植樹会総	
	4 月	第9回総会開催、会長に竹村吉右衛門氏(大 13 学)就任	新如水会館竣工	中曽根政権誕生
1983	昭 58	宮澤学長、竹村新会長、増田副会長、水上達三の各氏	森社会工学学術奨励金発足	歴史教科書問題が発生 国際捕鯨委員会で、商業 捕鯨の全面禁止を決定。
	4 月	第 10 回総会開催、竹村吉右衛門会長の挨拶から		
		「樹木というものはなかなか成長しないように見えながら、案外に早いものでの間に見違えるように成長し、戦後の荒廃、学園紛争時代の有様を知る我今昔の感があります。中略 問題は、今後これをどういう風に保守境整備ということは、建設することよりも保守する事が大切で、今後ともこのもよく相談し、武蔵野の一角にわずかに残りましたこの美しいキャンパスの選ます。」	え々にとりましては、まさに Pしていくかであります。環 点につきまして学校当局と	三宅島噴火
		総会報告から、「植樹会創立(昭 48)から 57 年度末までの大学への寄付額		
1984	昭 59 4 月	第 11 回総会開催、報告から	一橋大学公開講座第一回開催	グリコ・森永事件 多摩川にサケ戻る
	. , ,	「学校当局から 記念植樹に際しては造園計画、あるいは維持管理の点から事前協議の要望をいただいた。」		

西暦		植 樹 会 関 連 ト ピ ッ ク ス	学内トピックス	学外トピックス
1985	昭 60		大学で室田助教授(当時) を中心に学内緑化運動	
	4月	第 12 回総会開催、会長に水上達三氏(昭 3 学)就任	を中心に子内林化理到	日航機御巣鷹の尾根に墜落
		総会議題、3号議案に関して出席者の発言から	都留重人名誉教授ハーバー	
		「基本問題というのは、最近の植樹会の寄付金の逓減傾向を憂える所か	ド大学から名誉博士号授与	NTT、JT 民営化決定
		ら、この運動の基本的あり方を根本的に考えていただきたいという主旨の		
		もので、将来計画を常務理事会に付託して立案していただきたい。」		
		総会の様子		
1986	昭 61		ー橋フォーラム21開講	チェルノブイリ原発事故
	4月	第 13 回総会開催		<del>**</del> 1111 10 1
		年度報告の中に「東校舎本館の正面玄関付近ほか整備した」とある。		前川レポート
		なおこの年、国費による環境整備費は 18 百万円余で松のコモ巻きほか、東		
		フェンス沿い及び佐野書院等の環境整備しました、との記録あり(如水会々等		
1987	昭 62		如水会大学海外派遣留学 制度創設	JR 発足
	4 月	第 14 回総会開催	一橋論叢第 100 巻刊行	大学審議会設置法案可決
1988	昭 63	第 15 回総会開催、川井学長の挨拶から		青函トンネル開通
	.,,	「外国から見えた方々も一様に一橋大学の美しさを賞賛されるが、これもひ	とえに植樹会が母校の環	17111 - 1711/11/22
		境美化に尽力されているお蔭と感謝しつつ、こうした支援に報いるためにも、 充実に努めてゆきたい。」		消費税導入
		年度報告の中に「矢野先生銅像周辺整備(樹木剪定、敷石取設)」とある。		
1989	平1			天安門事件、ベルリンの壁崩壊
1990	4月平2	第 16 回総会開催		バブル崩壊 長期不況へ
1000	4月	第 17 回総会開催、会長に植松健悟氏(昭 14 学)就任		· · › / V N N N N N N N N N N N N N N N N N N
1991	平 3			湾岸戦争勃発
	4 月	第 18 回総会での報告から「産業経営研究所の西南側環境整備(植栽および	遊歩道設置)に注力した。」	ソ連邦崩壊

# 《寄稿》 80年代と90年代の一橋植樹会

白石 武夫(昭35法)

私が如水会事務局の総務部長、業務部長として、植樹会の運営にかかわっていたのは1983年4月から2002年4月までのほぼ20年、タイトルの時代区分、その流れの「時」と一致する。

この時期の植樹会の活動状況はあえて一言で言い表せば「マンネリ化」であったといえる。つまり、草創期のあの熱が冷めたかのように年1回の定例総会のみが年中行事と化し、十年一日のごとき筋書きで会が運営されていた。

当時 監事で、植樹会運動に大変熱心であった故中村達夫氏



桜咲く小平分校の階段教室などを見学

(昭16学後)が、「マンネリに堕した本会をどうするのか、どういう方向に持っていくのか」といったことを総会の場で発言しておられたことを思い出す。マンネリ化の状況を指し示す具体例を思い出すままにいくつか挙げてみる。

- ①総会の題が「植樹会と観桜会」となっており、「お花見がてら総会にどうぞ」といったニュアンスであった。
- ②総会出席者の顔ぶれは、林鷹治大先輩(大 12 学)、一番下が昭和45年卒の田中襄一、樋浦憲次の両君といった具合でほぼ常連化していた。
- ③78年(昭和53年)の第5回総会までは、毎年会費収入も百万円を超え、母校にほぼ同額を寄付してきたが、第6回あたりからその額も減少傾向になってきた。そのため相応の寄付を維持すべく、87年の第14回総会から、毎年如水会から30万円の補助をうけるようになった。

このような中で、私はある会合で、当時植樹会副会長であった増田四郎先生(昭7学、元学長)に「一定の役割を終えた植樹会は解散したらどうでしょうか。」と話を切り出したことがあった。すると先生は「白石君、植樹会はいかにも一橋らしい精神運動なんだよ。」と爽やかな笑顔で答えられた。それ以来私は、先生のお言葉の哲学的含意を考え続けてきた。(了)

西暦		植樹会関連トピックス	学内トピックス	学外トピックス
1992	平 4		国際交流会館完成	銀行不良債権問題激化
	4月	第 19 回総会開催、塩野谷学長の挨拶から 「母校キャンパスはお陰様で日本国内では相対的には良好である、しかし、 が植樹以上に大事になる。植樹した樹木の全体の調和を維持し管理してい 切である。・・・本来ここ国立キャンパスは松風の吹くところであった。」	今後は環境の維持・管理	
1993	平 5 4 月	第 20 回総会での報告から 「平成5年度 第一新館南側環境整備に注力した。」	38機関との間で国際交流 協定締結	Jリーグ開幕 細川内閣成立
1994	平 6	「十成5年及「弟―村昭曽側環境登禰に注力した。」		
	4月	第 21 回総会開催、その議事録から 「故茂木啓三郎理事の追悼に当たっては、『募金というものは集まった金額の多寡ではなく、寄付に参画されたかたがたの人数が大切だ』と生前おっしゃっておられた。」 会員有志は佐野書院		
		改築現場を見学		
1995	平 7	第 22 回総会開催	佐野書院改築完成 留学生総数 300 名を超す	松本サリン事件 阪神大震災 公定歩合を史上最低の
1996	平 8		_	0.5%に引き下げ
1990	4月	第 23 回総会での報告から 「昨年度東キャンパス合同棟周囲環境整備に注力した。」	小平キャンパスの改革・国 立へ統合・移転	
1997	平 9	第 24 回総会開催、植松会長の挨拶から	東キャンパス講議棟2号館完成	   京都議定書   香港の中国返還
1998	平 10	「東校舎周辺の緑化と小平跡地の環境整備に取り組む」	大学の付属図書館がランキン が1位に評価さる(朝日新聞)	山一證券自主廃業
	4 月	第 25 回総会後の懇談の場で 「国の予算で計上している大学の緑地整備費3千万円と対比してその5%にも		イラク空爆
1999	平 11	のあり方に改めて疑問を提起、現時点の5倍を目標にした方策を講ずるべし		石原都知事誕生
	2月 4月	石学長論文「キャンパスは大学の顔」を「国立学報」に寄稿 第 26 回総会開催、石学長の挨拶から		
		「ゴミは自分の顔に泥を塗りたくるようなものだ。キャンパス内に散乱するゴミ大学の顔を汚し、いくら研究・教育面で名声をあげても良い大学だとは胸をにで誇れない。・・・・・学内がきれいなったといわれるよう努めたい。」		
2000	平 12 4 月	第 27 回総会での報告から	大学院重点化完了	沖縄サミット
	. ,,	「東キャンパス校舎棟の南側環境整備に注力した。」	7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
2001	平 13	第 28 回総会での植松会長の挨拶から	四大学連合憲章締結	9. 11テロ
	4月	「本植樹会としては引き続き『東校舎周辺の緑化』が一段落したので、小平	地区の緑化にも力を入れ	小泉政権誕生
2002	平 14 4 月	てまいりたい。」 第 29 回総会開催、総会後の観桜会には国立市「桜守の会」 大谷氏、動物写真家 大高氏が特別参加	小平国際共同センター新設	食品偽装事件多発通貨ユーロ統合
		אנו מינינו מיניקטיי איניקט או ניי איני איני איני איני איני איני אי		日韓共催 FIFA W カップ開催

西暦		植樹会関連トピックス	学内トピックス	学外トピックス
2003	平 15 4 月	第 30 回総会の場での片柳梁太郎常務理事(植松会長の代理)の言葉から	大学法人法成立、改革始まる	SARS の脅威 イラク戦争
	4 /3	「昨今、大学当局の緑化整備の努力にもかかわらず樹木や芝生の管理に 手が回らず、『汚い危ない負の環境』になりかねない一面も出ているが、緑	兼松講堂大改修	1 プグキルザ
		の環境保全には『不断のきめ細かい手入れ』が必要である。」 植樹会から石学長に改革・提言の申し入れ	総合情報処理センター設置	
	_		0	
	6月 7月	│緑地管理のため調査開始 │現行形式のボランティア作業開始 参加者 10 数名	COE プログラム 3 件採択	
	12月	植樹会ホームページ立ち上げ 「国立キャンパス緑地基本計画」骨格固まる		_
		如水会事務局との連携密接化		
2004	平 16		国立大学法人一橋大学発足	チェチェン独立闘争
	4月	第 31 回総会開催、会長に岸田登氏(昭 35 経)就任	法科大学院開設 北京事務所開設	
		定款を大幅に改訂(要旨)		スマトラ沖大地震
		1、会の目的変更(苗木を植える植樹会から緑の環境保全を支援する植樹	<b>会へ</b> )	
		2、大学当局を中心に OB と学生の連携強化(学生会員の新設)		日本の「紀伊山地の霊場と 参詣道」が世界遺産に登録
		3、円滑な会の運営(常務理事、常務理事会の廃止)		
		総会後に如水会からの言葉 「月一回の緑化維持、環境美化保全の現場作業を既に開始していると聞い	ております。今後はこの活	アテネ五輪
		動に学生諸君にも参加して貰い、教職員、OB、との新しいコミニュケーションの場だた美しい緑の環境で、感受性豊かな人材を輩出することを期待しております	が実現し、みなで作り上げ	
		「国立 100 年の森」プロジェクト スタート 顧問に福嶋司東京農工大学教授就任		
	11 月 12 月	福嶋顧問 如水会館定例晩餐会で「基本計画と理念・保全」について講演 基本計画策定後初の植樹実施	「国立キャンパス緑地碁	基本計画」が承認された

#### 《遺稿》 植樹会活動に対する想い -小冊子第1号(2004年12月発行)掲載文からの抜粋-

植樹会元会長 岸田 登(昭35経)

大学の緑は教育環境に様々な恵みを与えてくれる。一つは「防音効果」。元々キャンパス周辺は静かであるが、森があることによって更に静か になる。二つ目が「温度調節」。三つ目は「酸素供給」。四つ目は「フィトンチッド(木の精)」を放出する。更に、緑は眼や心の疲れを癒してくれる 等、様々な恩恵を与えてくれる。この様に大学の先生方、学生の皆さんは無意識の中に非常に恵まれた環境で、研究・勉学されているということ ができる。

今大学の森は手入れ不足で荒れている。この貴重な財産を後世に引き継いで行こうというのが植樹会の「思い」である。幸い大学当局も思いは 同じで、大学緑地全体に関して、『国立キャンパス緑地基本計画』を作成し、緑化維持の計画性、永続性を図ることになった。

先ず、如水会員には更に「母校の緑」に関心を持って頂き、大学当局の方 針を充分踏まえながら、出来ることから取り組んで行く方針である。具体的 には従来の活動に加え、大学が作成した「国立キャンパス緑地基本計画」 に基づき、月一回の緑化維持、環境美化保全の現場作業をボランティア活 動として開始した。

今後はこの活動に学生諸君にも参加して貰い、教職員、OB、学生との新 たなコミュニケーションの場が実現し、共同作業を通じて一体感が醸成出来 ると期待している。また皆で作り上げた美しい緑の環境で、感受性豊かな人 材を輩出することが植樹会の遠大な目標でもある。

樹木は我々人間よりずっと長生きする。母校の森も例外ではなく、この森を 世話していくためにも、植樹会を通して先輩から後輩にこの「思い」を伝え て、永続的に行動することは大きな意義があると思う。大学法人化を契機に 教職員、OB、学生が一丸となって大学の緑を守っていくことが『自然保護』、 『教育環境保全』に繋がるものと考える。(了)



春の「岸田」ロード

岸田元会長は植樹会会長に就任直後に急逝されました。本文はその後に発行された「植樹会小冊子」に掲載されたものです。

### 《座談会》

# -- 植樹会の転換期を語る --

2003 年 4 月 5 日に開催された第 30 回総会で、一橋植樹会は大きく活動方針を転換しました。 この転換期に活躍をされた方の中から福嶋司氏(当時東京農工大学教授)、田﨑宣義氏(当時社会学研究科長兼社会学部長)、田中政彦氏(当時植樹会常務理事)に当時を振り返って頂きました。
(司会は植樹会佐藤征男氏)

司会:田中さんは故岸田登元会長とともに 2003 年 4 月 22 日、母校に石学長(当時)を訪ねられ、緑の環境改善を促す提言をされたと聞いています。



田中:大学の緑を「よくここまで放っておいたものだ」というのが、当時の率直な思いです。当時、相当たくさんの木を植えて、キャンパスを緑豊かにしようという意図は、至る所に見えていました。しかし手がつけられなくなった部分があったんだろうと思います。植樹会の方にしても「植樹会の歴史的使命はもう終わった」という意見もありました。然し、折角〇Bも熱い気持ちを持っているわけだからと、岸田氏と一緒に緑の管理の必要性を申し入れたら、快く大学に受けとめて貰いました。「それなら一緒にお手伝いしよう」という気持が盛り上がりました。当時の会員数は150人位で、いってみれば苗木を寄付する人たちの集団、大学の教職員の皆さんや学生は含まれていませんでした。

田中顧問

田崎:大学では緑は大事だという認識があり、「一本たりとも切るべからず」という風潮でした。1999 年1月に図書館の拡張工事で大きいヒマラヤスギを伐採しましたが、そこに辿り着くまで学内の議論が大変でした。石学長と安藤図書館長が木の前でお別れの言葉を述べ、2本の木にお神酒をあげてそれでやっと切るという状態。こんなことでは建物も建てられない。遷移も進む。このままではまずいな、というのが最初の出発点です。お話に出た2003 年の4月22日、石先生に呼ばれて学長室に行ったら、田中さんと岸田さんが居られて、そこで「木の手入れをするから頼むぞ」という話になったんですね。そこからです。植樹会が変わって行った事が大学を変える力になったと思います。そしてその頃、知り合いになっていた福嶋先生にお知恵を借りることになりました。

司会:福嶋先生、最初にキャンパスをご覧になって驚かされましたか。

福嶋:いや吃驚しました。

司会:キャンパスの調査もされたんですね?

田崎: そうです。記憶では同年の 6, 7, 8, 11 月と4回位、全部キャンパスを周って。

田中:福嶋先生は、これは皆が見て、皆の気持で決めなきゃならないことだから、よく見て勉強して判断 して下さいという事でした。



田﨑先生

司会:そうした植樹会と大学が連携する流れの中で、大学は「国立キャンパス緑地基本計画」を2004年12月に決定しましたね。

田崎:福嶋先生に田中さんや施設課の皆さんも一緒になって作って下さったのを大学の正式の方針として決めました。そのずっと以前、

2001 年 11 月に福嶋先生にキャンパスを見て頂いた。その時に、「これはゾーニングをして、計画的に管理して行った方がいいですよ、必要であれば私がお手伝いしてもいい」と言って下さったのを覚えています。

福嶋:私は本当にお手伝いをしただけですから。

田崎:普通、建物の基本計画はどの大学にもあると思いますが、緑地の基本計画を持ったのは、国立大学では多分うちが初めてだと思います。

福嶋:初めてでしょうね。うち(農工大)にもないんですよ。

田中:私が言うのも何ですが、実際は 2003 年 6 月に福嶋先生の頭の中には基本計画はもう全部入っていたんです。



福嶋顧問

福嶋:限られた空間ですけれども、武蔵野の自然も残っているし、人の生活する場所でもあるし、植生管理という私の専門部分の「人間との関係」、「自然との関係」のあり方を勉強するのに非常にいいフィールドだという感じはありました。

司会:その後、その基本計画に則って作業を進めてこられましたが、最初参加者はどうでしたか。

田中: 2003年7月から調査と平行してボランティア作業をやったんですけど、少なかったです。10人強位ですかね。

司会:植樹会の学生、教職員、OBと3者での全学運動という意識は最初からですか?

田崎: 2003 年 11 月位が最初だったと思います。社会学部の会議室で集まりましたっけ。

福嶋:野鳥などに詳しい中野晶子さんなどの学生もその段階から関与していました。

田中:本来は、学ぶ学生達と、仕事をしたり研究をしている先生方と職員が守っていくものですね。故岸田会長の考え方ですが、学生 もただ享受するだけではなく、緑に参画していく。 司会:そういった理念といえるものは意識として浸透してきたと言えますか。

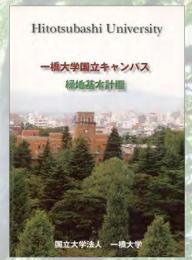
田中:強くそう思います。それはやはり福嶋先生の指導を受けてやっていくでしょう。そうすると、 綺麗になって来るから自信がついてくる、それは老いも若きも僕は一緒だろうと思います。

司会:こういったことは日本の他の大学であまりありませんね。

田崎:ないと思います。聞いたことがない。私どもは誇るべき活動を持っていると思います。また ゼロ・エミッションとゾーニングとボランティアの三つは福嶋先生の始めからのアイディアで す。これがまた素晴らしいですね。

福嶋:基本計画策定の時に皆で議論していたら、やはり捨てるものはないと。枯れた木でも置いて おけば別の昆虫だって生活できるし、それをまた食べると鳥もいるし、外に資源を出して捨て てしまうよりは、中でとにかく回すような恰好の方がいいじゃないかという話になったんです ね。その時の基本計画の幾つかのキーワードの一つが、今述べたゼロエミッション。

田中:「基本計画」を作る前の調査時にキャンパスを周りました。それこそ竹藪などをかき分け、 かき分け。



2004 年発行

全部綺麗にするというイメージもあったのですが、「そのままの形で残すところもあるんだ」という事をものすごく新鮮に受け取り ました。ゾーニングの重要性を納得しました。

福嶋:ゾーニングする上でのポイントは、人間が一番たくさん出入りして使う所と、そうでもない所。求める機能も違うわけです。一 番人が使う所は憩いの場所であるし、リラックスできるような中心部。その全く逆が周辺部です。周辺部は外とのある意味、隔離 の部分、防音とか砂ぼこりを外に出さないという機能もある。同時に手を余り入れないという所で、野生の動物、特に竹薮にはウ グイスなんかが生活しています。両方の中間部分というのは、桜を多く植えてある部分や武蔵野雑木林の流れを残している部分で 人間が使い、自然の力にも任せるという、その両方の感覚。

司会:緑地基本計画の中には、都市緑地における緑の考え方もあると思いますが、教育研究というキャンパス機能のあり方もあると思 います。

田﨑:80 年以上前大学が国立に移ってきた時、「自然環境に恵まれた中で教育し、研究することが、大学にとって一番いい」という考 え方があった。それをこれからも維持したいというのが当時の一番の考え方でした。ヨーロッパの僕が訪問した大学では、キャン パスの緑を管理するセクションがちゃんとありました。ところが日本の大学でそういうものを持っているところはどこにもない。 大学としてこの緑を大事にしていくことが大切です。またキャンパスの緑は多摩地区の中でも貴重な緑です。それをこれからも維 持して大事にしていくというのは、地域社会にとっても大事なことだと思います。

司会:では、今後の活動について考え方をお示し下さい。

田﨑:基本計画は大学が機関として決定したものですから、それを活かすことが第一です。また、ただ墨守するのではなくて、必要が あれば見直す。それからもう一つは、キャンパスの緑を通して教え学ぶ場ができるといいなと思います。

福嶋:作業を7年間やってきて、第1段階は終わったかなという感じはします。それは 基本計画に沿って作業した成果が出ていると思いますが、第2段階となると、「伐採 した所」「木がない所」に今後どういう緑をつくっていくかということです。東キャ ンパスを中心にして、もう少し緑の進展があってもいいという感じはしています。 それぞれの場所で管理の仕方を考えていかなければいけません。それぞれの場所の カルテを見て、それがどこまで達成できているのか、できていないのか。チェック をやっていくことが必要だと。

もう一つは、教育にこの自然をどう生かしていくのか?この必要性は非常にある と思います。

作業だけでいいのか、あるいはカリキュラムの中にそういうものを組み込んで、実



ボランティア活動の様子

際に接するようなフィールドワークをやっていくのか。外からわざわざ講師を招かなくてもOBの方が直接話をするという形があ ってもいいでしょう。やり方に関していろいろなアプローチができるんじゃないか。イベントとして、遊び心も持ちながら進める こともいい。ススキの草原をつくったなんていうのは月夜の十五夜を見ようかというのがその例です。先はちゃんと見据えていれ ば、いろいろなことがあってもいいなと。そんな感じがします。

司会:2003年以降ずっと活動してこられた田中さん、今の段階はどこまで来たとお考えですか。

田中:さっき、福嶋先生が第1期が終わったという表現をされましたし、田崎先生も熱き思いがまだ全部実現したわけではないという し、そういった意味では当時を思い出すと非常に大変なエネルギーを私は自分で使ったと今でも思っています。それでもいろいろ な視点から見てまだまだやることはたくさんあるという思いです。ですからぜひこれからも植樹会の皆さんには活躍していただき たい、頑張ってほしいということです。(ア)

(2010年4月如水会館にて)

西暦		植樹会関連トピックス	学内トピックス	学外トピックス
2005	平 17		記念植樹一覧表完成	福知山線脱線事故
	4 月	第 32 回総会開催、会長代行に田中政彦氏(昭 35 経)就任		ロンドン同時多発テロ
	7月	キャンパス外研修スタート、初回は群馬県玉原高原(ブナ林)見学	(7	
		"一橋大学クリーンキャンパス キャンペーン"応援参加	緑のデザイン賞受賞	郵政民営化選挙
2006	平 18		大学植生リスト完成	
2000	' '0		八十恒工八八九成	
		「国立 100 年の森プロジェクト」が、文科省が発表した全国国立大学施設管	管理運営に関する先進 11 事	事例の ひとつとなる
			l-	I
	4月	第 33 回総会開催、会長に加納誠三氏(昭 37 経)就任		ライブドア、村上ファンド事件
		学生会員からも植樹会理事誕生 	第一回ホームカミングデー開催	
	5月	レスター・ブラウン博士(アースポリシー研究所長、一橋大学名誉博士)		
		特別会員となる		
		ー橋祭・KODAIRA 祭に植樹会として参加		
			<b>不下</b> 上表外	
2007	平 19	1 214 - 13 13 17 13		年金問題発生
	4月9月	第 34 回総会開催   他大学キャンパスめぐりスタート、初回は玉川大学	S S W TO	
	9 Я	他人子イヤンハスのくりスタート、初回は玉川人子   記念植樹		
2008	平 20		ー橋大学基金の募金スタート	世界的金融危機発生
	4月	第 35 回総会での報告から「年間のボランティア作業参加者数 933 名を数え	් <sub></sub> る。」	
	9月	他大学キャンパスめぐり 東大駒場キャンパス見学		北京オリンピック
	10 月	キャンパス外研修 千葉県亀山で三井物産フォレストと合同研修		
	11月	キャンパス外研修 玉原高原ブナ林作業		中国四川省で大地震

#### 《寄稿》

# 私と一橋植樹会 (2004年6月~09年5月)

植樹会前会長 加納 誠三(昭37経)

#### I 2004年6月~06年5月

- 私がなんら予備知識なく作業に初参加したのが6月。4年間の如水会理事会の任務が5月で終了してホットー息ついた直後で、会長に就任された岸田さんが急逝され、田中さんがトップとなられた直後でもありました。田中さんや福嶋先生に最初からご懇意にしていただき毎回の作業参加が楽しみになりました。特に飲み会が・・・。田中さんには何処に行くにも一緒に連れて行かれ何かと勉強させられました。
- 2005年早々、あまりに忙しい田中さんのご負担を軽減する目的で執行機関として幹事会設立 案を検討、総務班、組織班、広報班、作業班を設置して任務の分担を図ることが決まりました。
- O 2005年4月 副会長に就任して私が担当した広報分野では、HPの管理、PR小冊子発行に加え如水会々報に「植樹会通信」を掲載開始しました。記事探しのため植樹会活動のすべてに顔を出すことを心がけたことを思い出します。 ボランティア作業参加者数、OB 会員数は順調に増加しましたが、学生動員には苦労しました。「学生との懇談会」を企画して学内の諸組織の代表者に PR するなどいろいろ試行錯誤がありました。



レスター・ブラウンー橋大学名誉博士と 加納前会長

#### Ⅱ 2006年~09年5月

- 会長役を務めたこの3年間、幹事会毎月1回の定例開催により活動方針の徹底を図るとともに、会員組織の拡大に注力しました。OB 会員増 員に関しては、卒業周年記念パーティーあるいはホームカミングデーでの勧誘が恒例化して 大きな成果を挙げることが出来ました。また終身 会員制を設定しました。
- O 組織班から学生班と教職員班を分離し大学内組織強化にも努めました。 KODAIRA 祭、一橋祭の責任者との協力関係が樹立してから学生参加が確実になってきました。また毎年複数の学生理事誕生が恒例化しました。そして毎年両大学祭への直接参加も実現しました。
- 広報関係ではHPのレイアウト改善と内容の拡充、PR用小冊子の定期刊行、一橋新聞をはじめとする学内刊行物への広告掲載、全会員への 毎年の活動報告書を送付しました。
- 〇 年一回、幹事会でのブレーンストーミングも有効でした。この中で植樹会のサブタイトルとして "Let's Green & Clean"が採択されました。また 学外活動への進出も決定され定款にそれを盛り込みました。財務内容も強化されたお蔭で植樹会旧来の使命「大学への樹木の贈呈」も再開、 同時に卒業生による記念植樹の企画も実現、まさに Green & Clean です。
- 植樹会の活動は大学の基本方針達成を支援することが大前提です。それ故植樹会の将来はキャンパスで学ぶ、過ごす学生、教職員がいかに植樹会の理念に賛同、協力してくれるかに大きく依存していると思います。学長をはじめとする大学当局とは折に触れ意見交換してきました。お願い事項を実現するためには時間が必要でしょうが、大学側、特に学生の植樹会活動への積極関与が非常に重要なことだと認識しています。また昨年3月 植樹会集会所を設けてくださったことは進歩の一つだと感謝しています。
- 最後に二つお礼を申し上げたく存じます。一つは小生の呼びかけに応じて同期から多くの会員が生まれたこと、そしてそのうち数名が幹事会に入って活躍してくれたことです。二つ目は諸先輩、大学関係者、幹事会メンバー諸兄が大変なご支援を下さったことです。(了)

# 『植樹会史』発刊に寄せて



西暦

昔、目に留めた新聞記事のコラムに、「H大学のM学長は、このところいささか憂鬱である」という書き出しの文章があったと記憶している。松食い虫の発生で学内の松が枯れ始め、人から「虫の退治には、松一本に清酒一斗が必要」などとも聞かされ、M学長は気が滅入っている、ということだったように思う。そのことが、今般の「植樹会史」の校正刷りに書かれた「増田学長の植樹運動提唱」という見出しを見て、懐かしく思い出された。

さて、植樹会の活動について、私自身はごく近年の内容を知るに過ぎない。しかし、私にとってこの7年間の植樹会の活動成果はまさに驚異的だった。まずは事実として、キャンパスの景観が激変した。ここで大事なのは、景観の変化をもたらした厖大な作業の背景に、植樹会の目的変更による新しい理念の確立と、その新しい理念を推進するための緑地基本計画の策定、さらに、計画を実践に移すことを可能にするような組織強化という、多くの関係者による整合的で持続的で献身的な努力があったということであろう。

卒業生による記念植樹の再開も印象深い。これも植樹会の存在なしには復活することがなかったに違いない。 記念植樹の作業に参加するたびに、如水会員、学内教職員、卒業していく学生、そして在学生との間の、ほのぼのとした心の通じ合いを感じとることができた。それは、従来にはなかった新しいタイプの「オールー橋」のコラボレーションの姿ではなかっただろうか。 植樹会は新しい緑のキャンパスを創るとともに、これからの母校の発展を支える一つの新しい「文化」をも創り出してくれたのではないかと思っている。

ここまでの「新生」植樹会の活動の充実と強化に関わってこられたすべての関係者に対して、ここに大いなる感謝を捧げ、深く敬意を表し、厚く御礼を言上したい。大きな発展を遂げた植樹会が、今後もさらに、関係者間の意思疎通と連携の宜しきを得てますます飛躍することを、いま、心から願っている。

植樹会関連トピックス

一橋大学長 杉山 武彦

学内トピックス 学外トピックス

四僧		他倒会関連トヒックス	学内トロックス	子がトロックス	
2009	平 21	植樹会集会所(施設課分室)新設(3月) 第36回総会開催、会長に籏野友夫氏(昭38経)就任	Global COE Hi-stat Newsletter		
	5月	第 36 回総会開催、会長に旗野及大氏(昭 38 程) 就任 運動部各部との連携・協働作業の推進強化	発刊		
		連動的合品との連携・励動TF来の推進強化 樹名板をとりつけ	トリスターを設置 ト情報基盤センターを設置		
	6月	ちゃっぱん   おいまして   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日	国際化推進本部を設置		
		白金自然教育園見学実施		TL 1/2 115	
	7月	会員 1100 名を超す 植樹会旗の製作なる		政権交代	
		キャンパスツアー路の整備・ツアーの実施		The state of the s	
2010	平 22	イヤンバヘング 昭の走備・フグ の天池			
	3 月	第二草原ゾーンに着手	40.50		
	5 月	第 37回総会開催			
		2 3			
15			7.6		
	THE REAL PROPERTY.		卒	業記念植樹	
	1:8			514 <b>16</b> 161	
	u		-2 8		
	n n-5		H H		
TH			5 10 +		
1			much_12		
	. We	《国立キャンパス	<b>ハーニン</b> が図》		
		Mart (27)			
N-		開放を視野に入れた			
		花木を中心とした植り 武裁野の面影を維持			
	NI A	■ 騒音を遮る自然林り	<b>?</b> −৩		
v-2	Syll	// 人工的手法で■の 章地(ススキ章原)			
		16 17			
L					

歴	代の植樹会会長	長、副会長 ならびに当時の一根	喬大学長、如刀	k会理事長
	会 長	副会長	大学長	如水会理事長
昭 48	本田弘敏	<b>增田四郎</b>	都留重人	竹村吉右衛門
49	"	"	"	高橋朝次郎
50	"	" T T T T T T T T T T T T T T T T T T T		"
51	11	//	小泉 明	茂木啓三郎
52	/ B		"	7 - III - II - I
53	ıı_	"	蓼沼謙一	",
54	"	""	"	7 "
55	11	12-11	"	川又克二
56	11	" -	宮澤健一	11
57	竹村吉右衛門		"	"
58	II	増田四郎·水上達三	"	11
59	"	"-" - " - " - " - " - " - " - " - " - "	種瀬 茂	田部文一郎
60	水上達三	増田四郎	11	"
61	II.	増田四郎·長谷川徳次	11	"
62	- 11	<i>"</i>	川井 健	"
63	"	"	//	鈴木永二
平 1		長谷川徳次	= //	"
2	植松健悟	石川善次郎	塩野谷祐一	"
3	"	J. J.		"
4	-11	"	11	齋藤 裕
5	- 11	"	阿部謹也	1011
6	11	"	"	и
7	"	"	"	"
- 8		"	"	伊藤助成
9		"	"	11
10	11-	"	"	"
11	//	"	石 弘光	"
12	• <b>•</b> • • • • • • • • • • • • • • • • •		"	奥田 碩
13	"		7	11
14			"	"
15	"			
16	岸田登	田中政彦・寺西重郎	//	江頭邦雄
17	空席	田中政彦(会長代行)・加納誠三	杉山武彦	"
18	加納誠三	國持重明·谷 和久·新里英雄	//-	"
19	-11		/ //	"
20	11	國持重明·谷和久·土田将夫·	"	高萩光紀
	- Allen	八藤南洋・新里英雄・田﨑宣義		76.
21	籏野友夫	鈴木 勲·八藤南洋·志田哲朗·	"	"
All Carrie	-	佐藤征男·鐘江健一郎·田﨑宣義 鈴木 勲·八藤南洋·湯川敏雄·		

(敬称略、会長名は年度総会時) (背景写真は、国立移転後間もない頃撮影されたと思われる。)

編集後記: ここに「植樹会史」として小冊子をお送りすることができました陰には「豊かなキャンパスの緑を維持・保全していこう」という思いを共有する本当に多くの方々のご協力・ご支援をいただきましたことをまずもってお伝えいたしますとともに、そのことに対しこの場を借りてあらためて御礼申し上げます。 この企画は加納前会長の発議でスタートし、鈴木徹郎氏(昭 39 社)のご尽力で集められた多くの貴重な資料に目を通すことから始まりました。その間には久々に母校の図書館にこもり付随の資料を漁るなどのひとコマもありました。植樹会には長い歴史があります。その間にキャンパスの緑はもとより、携わった方々の想い、その考え方、植樹会自体、大学自体が時代とともに変わって行ったようです。変遷や時代を超えて残すべきものをここに十分に記すことができたとは到底思えません。それでもなお世代を超えて「込められた思い」を伝えていくうえで、この小史が何がしかのご参考になれば幸いです。(編集委員会)





http://jfn.josuikai.net/circle/shokujukai/

編集委員会注:個別には注釈を付しておりませんが、本誌編集に際し、大半 の資料を「如水会々報」、「一橋大学年譜」から引用、転載しております。